



# 皇學館 第37号

発行・編集 学校法人皇學館 企画部  
TEL 0596-22-6496・8600  
大学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部・社会福祉学部  
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704  
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704  
高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138  
【高校】〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)  
【中学】〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

### ●今号の注目記事

- 1面 記者懇談会を開催
- 2・3面 各学び舎で卒業式
- 4面 日中の学生が春節の集い  
2年生が第4回皇-1グランプリでW受賞
- 5面 日中韓研究者18名が名張に集う  
伊勢の伝統工芸約300点が一堂に
- 6面 神宮参拝、スキー研修 など
- 7面 建国の日の記念講演会を開催
- 8面 卒業記念ミュージカルを津で初開催

### ●Kらいふ(全学一体) 退任によせて ほか

退任によせて ほか

## 創立百三十年周年・再興五十周年 4月29・30日に記念行事を開催

### 記者懇談会で詳細発表



記者の質問に答え、記念行事への抱負を語る清水潔学長

記者懇談会で清水潔学長は、八年にわたり推進されてきた創立百三十年周年・再興五十周年記念事業の主な成果二点について説明した。一つは教育・研究環境の整備である。平成十六年に全人教育の理想の場として精華寮(男子寮)が

### 教育環境の拡充を第一に

一月十二日の記者懇談会において、清水潔学長より四月二十九日・三十日に行われる創立百三十年周年・再興五十周年記念行事について詳細が発表された。平成十六年に「記念事業推進委員会」が発足して八年。建学の精神を継承し、さらなる発展をめざして着々と進められてきた同事業のメインとなる記念行事が、いよいよ挙行の日を迎える。

再建されて以来、平成十八年にはスポーツの中心施設である総合体育館、平成二十二年は教育研究棟(六・七・八号館)、昨年には新研究棟(九号館)が竣工。本学の学風にふさわしい学び舎が次々と建てられ、学生が勉学に集中できるよう施設・設備を充実させてきた。二つめは神道を中心とした記念学術研究事業の

### 安倍晋三元首相が記念講演

周年記念を祝う行事として、特別展「神社名宝展」の開催(品目はKらいふ五頁参照)や、四月二十九日、三十日に記念行事(日時など詳細は八面参照)が執り行われること

も発表された。二十九日は元首相で自民党衆議院議員である安倍晋三氏を講師に迎えての記念講演会、さらに、雅楽師・東儀秀樹氏と本学雅楽部による記念演奏会が予定されている。また、創立記念日の三十日は記念式典のほか祝賀会や各施設の開放・見学会を実施。学校や神社関係者を中心に、二日間で二千人の来場者を見込んでいる。



①記念施設設計画の有終の美を飾った新研究棟(9号館)  
②スポーツやイベント会場として活用される総合体育館  
③旧1号館の精神的役割を受け継ぐ教育研究棟(6・7・8号館)



## 神々への美と技の精華、伊勢に集う

### 特別展

# 神社名宝展

— 参り・祈り・奉る —

本学の建学の精神である、わが国の歴史や伝統、神々への崇敬の念を物語る名品を一堂に集めました。日本文化の真髄に触れ、その精華の一端を感じていただければと存じます。



4月29日(日)~5月26日(土)

皇學館大学 佐川記念 神道博物館 2階 第1・2展示室

観覧料無料

開館時間 ●午前9時~午後4時 (入館は閉館時間の30分前まで)  
休館日 ●5月6・13・20日  
※期間中一部陳列品の入れ替えあり  
※展示品目はKらいふ五頁参照  
問合せ先 ●☎0596-22-6471

記念講演会「神々と神社宝物の精華」 聴講無料 電話による申込制  
【講師】岡田芳幸 本学教授・学芸員  
日時 ●5月19日(土) 午後2時~ 会場 ●皇學館大学 4号館 431教室  
ミュージアムトーク 5月1日(火)~5日(土) 各日 午前10時~、午後2時~

後援 ●文化庁・三重県・伊勢市教育委員会・神宮司廳・神社本庁・三重県神社庁

### 「学園報」と「Kらいふ(全学一体)」 統合のお知らせ

昨年十一月の広報会議におきまして、「学園報」と「Kらいふ(全学一体)」の統合が承認されました。「Kらいふ」については研究および教育活動をまとめた冊子として親しまれてきたものが、成果をタイムリーに伝えたいという意見や内容が学園報と重複する記事もあり、この度の統合に至りました。なお、行事報告等については今号のようにならざることを、年度末に一括してご報告させていただきます。今後はより一層紙面を充実させ、多彩な情報をお届けできるよう努めてまいります。



「ほつ まぶしいな。ほつ うれしいな。みずは つるつる。かぜは そよそよ。」▼懐かしく思われる方も少なくないだろう。小学校四年生の国語科教材にも取り上げられている草野心平「春のうた」の一節だ▼昭和二十八年八月、この詩人は、モリアオガエルの生息地を探して、川内村(福島県を訪れた。その際、豊かな自然と、素朴な人情に心を動かされ、後に蔵書三千冊を村に寄贈することになる▼これを機に、村では記念文庫建設の計画が持ち上がる。村人の持ち寄った資料と、努力奉仕により天山文庫が落成。その一方で、草野心平を名譽村民として、毎年木炭百俵が贈られたという。如何にも村人らしい心尽くしが感じられる▼そんな村が、二一一大震災の原発事故により、全村避難のやむなきに至った。この三月には「帰村宣言」が出されたものの、四月までの帰村者は四百人余り、かつての人口の一四パーセント程度という。帰りたいくても、帰れない現実がある▼あの大震災から既に一年が過ぎた。被災地に一日も早く命にきざむつ、明るい春がもどってほしい。「ケルン クック。ケルン クック。」

# 平成23年度 学位記・修了証書授与式 677名が新たな船出



厳かな雰囲気の中、執り行われた卒業式

平成二十三年学位記・修了証書授与式が春雨の降る三月十七日、記念講堂において厳かに執り行われた。卒業式に臨むのは大学院、専攻科、学部をあわせた計六七七名。学生たちはそれぞれの希望を胸に、新たな船出の日を迎えた。

## 「本学で培った羅針盤を大事に」

この日の午前中、清めの雨が降るなか外宮参拝、内宮御垣内参拝を終えた学生たちは、各々スーツや艶やかな袴姿で会場となる記念講堂に集まった。十一時半に始まった卒業式では国歌斉唱、令旨奉読の後、学位記・修了証書、賞状を授与。続く学長式辞で清水潔学長は「何よりもまず、今日まで諸君を支えて来られたご家族への感謝の気持ちを素直に伝えてください」と述べ、「学生最後の日に神宮の御垣内参拝を許され、社会人としての出発に奮いを新たにされたはず。どうか大御前での誓えようもない感動

と心に秘めた決意をいつまでも忘れないでほしい」と力強く語った。そして、「日本の精神文化を体現してそれを発信する

## 夢への第一歩を踏み出す

卒業式で答辞を読んだ教育学部の春木美帆さんは大役を果たし「ホッとしました。無事に卒業を迎えた今の心境を「大学生活がとても充実していたので、ほっとして穴が開いた状態」と語り、「教育学部の第一期生というところで学校に貢献したい気持ちがあった」と学生生活振り返った。その言葉通り、小学校の先生として四月から教壇に立つ春木さん。めざす教師像について「卒業・ミューズカルや授業で互いに思いやり、仲間と協力する大切さを学んだ。そのことを子どもたちにも伝えていきたい」と意気込みを話した。



答辞の大役を務めた春木さん(右)と大宮司賞を受賞した天田さん

県内の知的障がい者施設で生活支援員として働



研鑽に励みたい、と亀山さん

くことが決まっている社会福祉学部の天田景子さんは「名張と伊勢学舎が統合したことで慣れるのに少し時間がかかった」としながらも、「アットホームな雰囲気はそのままであったので安心した。きめ細やかな指導のおかげで社会福祉士と精神保健福祉士のダブル合格も果たせ、とても満足している」と笑顔で話した。

博士課程在籍中に学位論文が合格し、いわゆる課程博士として修了した亀山泰司さんは、「上代文学の本場である伊勢の地で、堅実な校風の中、多くの仲間と切磋琢磨できた」と毛利正守教授の指導の下で研究三昧の日々を過ごせたよう。四月からは本学の非常勤講師・神道研究所研究嘱託になることが決まっている。

早いもので大学院に入学してから二年の歳月が流れた。学部も含めると六年間も皇學館でお世話になったことになる。毎日、電車と自転車を使って夏は汗を流し、冬は体を震わせながら倉田山の坂を登った。それももう無くなるのかと思うと、いささか寂しい気がする。大学院に入ってからには学部では味わえない様々な経験をさせてもらった。例えば、学部生の指導を行うティーチング・アシスタントや高校の非常勤講師、先生方や先輩方に学会へ連れて行っていただいたこともあった。昨年は研究旅行があり、国史学専攻は博多から久留米を訪ね、太宰府天満宮や金印の実物を見てきた。その後、北方領土対策協議会の誘いにより院生二人で根室を訪れ、北方領土を見てきたこともあった。今振り返るとどれも楽しい思い出である。

伊勢の地に生まれた私は、神宮の旧神領民として誇りを持って今まで生きてきた。それと、同じく伊勢で生まれた育った祖母の口癖は「神領民として、神宮に敬意を持って生きなさい」。家では毎月朔日に氏神様へ欠かさず詣でており、昔から厚い信仰を寄せてきたからだ。

専攻科には、それぞれ十人十色と呼ぶにふさわしい、様々な経歴を持つ人が全国から集まる。高等神職を目指し、各々が確固たる理念を持ちながら切磋琢磨しあい、想いを遡巡し、仲取持として

の第一歩を踏み出すという懸念に努力を重ねてきた。この一年を振り返ると、私は知識以上の経験と生涯にわたって付き合いの出来る仲間達を得た確信がある。運命とも思える数々の人との出会い、そして、それらの縁に

ゼミで読んで夏目漱石の『倫敦塔』に強く興味を引かれた。主題が容易には掴めないこの作品には燃え、卒論のテーマに据えることに決めた。

振り返れば無駄なこと一つもなかったように思う。ともに学び、刺激をくれた仲間との出会いは何よりの宝物だ。この先の人生で何に挑戦するとしても、この大学生活の思い出が、一歩踏み出す勇気をくれるだろう。

準備などは毎回大変だったが、その分やり甲斐もあった。一番大変だったのが修士論文の執筆である。修士論文は量・質ともに卒業論文を上回るものを書かないといけないため、一年の夏頃から題目を決めて史料収集にあたった。東京の国立国会図書館へは何度足を運んだか数えきれない。しかし、おかげで良い論文を書くことができた。この

経験は一生の宝物である。本当に、先生方や先輩方、そして後輩の諸君にはお世話になった。どれだけ感謝しても足りないほどだ。

まず最初に浮かぶのは常に隣にいてくれた仲間の姿だ。クラブ活動をはじめ幾つもの学内行事があったが、その全てが楽しいことばかりではなかった。辛かった時や諦めかけた時もあったが、周りの

を見渡せばいつも共に悩み、苦しんでくれる仲間がいた。就職活動や卒業論文ではお互いに励ましあひ乗り越えることができた。また、私生活においても仲間の存在は非常に大きなものだった。日常の何気ない時間が積み上げられていくうちに、気づけばかけがえのない宝物となっていた。そんな仲間が得られたことを誇りに思っている。

塔」と向き合い、論文を書く上で大切になった。ゼミで自分とは違う仲間の視点を知ったこと、部活動で多くの仲間から協調性と積極性を教わったこと、サークルで苦手を英会話に挑戦したこと、最後の文化祭で引込み思案を押しして樽御輿に参加したこと、悩んでも涙しながら語り合える友人に出会えたこと。様々な経験が私を成長させ、思いもよらない力に変わると知った。

また、大学生活において毎日の学業をはじめ、将来の進路や私生活に至るまで常に暖かく見守り、迷ったときも導いて下さった先生方や職員の方々に感謝の言葉が尽きない。

## 卒業生

# 随想

仲間とともに学び、笑い、励まし、涙した日々——それぞれの思いを胸に、新たな生活に向かって巣立つ卒業生の言葉を紹介する。

## 学んだことを役立てたい

大学院博士前期課程国史学専攻 田中孝佳吉



「縁」を紡いで  
神道学専攻科 山口洋奈



卒論は自分を試す場  
文学部国文学科 伊藤絵里香



仲間が存在が誇り  
文学部神道学科 山田二三郎



い仲間と離れそれぞれの人生を歩んでいくことになる。離れたい気持ちには強いが、それぞれの道に輝かしい未来が待っていることを願っている。

また、大学生活において毎日の学業をはじめ、将来の進路や私生活に至るまで常に暖かく見守り、迷ったときも導いて下さった先生方や職員の方々に感謝の言葉が尽きない。

為せば成る

文学部国史学科 荒木卓哉



気が付けば卒業間近。入学式の日を思い出す。先日のように思い出す。専門の勉学や大人の講義、履修登録など不安と希望に満ち満ちていた。

しかし、いざ始まってみれば順風満帆な日々。三年生の時には専門的な学問を探究・追究するゼミが始まった。私は中世のゼミに入る事にした。戦国時代が好きだったからである。卒業論文は古文書の一つを題材に選んだ。四年間の大学生活、取

り組む事に関しては、すべて「急がば回れ」の気持ちで臨んだ。そのため思っていた以上に時間がかかってしまう事もあった。だが、そんな時こそ「為せば成る」と自分に言い聞かせた。

思つに、社会に出てからも勉学は続く。仕事に對して、社会人として、生きていく為……。人は死ぬまで、それぞれの勉学が続くのではないだろうか。途中で迷ったら、一年生の頃は朝から夕

自国文化理解の大切さを実感

文学部コミュニケーション学科 松本奈々子



「充実」という言葉が当てはまる。一年生の頃は朝から夕

方まで講義に出る毎日。二年生になり専門的な講義が増えると、特に異文化交流について興味を持った。そして、実際に海外での生活を体験してみたいという気持ちが強くなり、カナダのバンクーバーへ八月月間語学留学をすることを決意した。

化を理解する前に自文化を理解する必要がある」ということ。皇學館大学では日本の文化についての講義が多く組み込まれているが、異なる文化を持つ人に対等に発言する上で非常に大切なことだったのだと実感した。

今となっては就職活動も良い思い出。就職氷河期と言われ不安だらけだったが、大学生活を通じてコミュニケーションを

しての経験、就職支援室のおかげで第一志望の会社から内定を頂けた。大学は休みも多分、自分で行動を起こさないと時間だけが過ぎて行く場所だと思つ。有意義な時間の使い方を考え、「今」しか出来ないことに挑戦出来た大学生活。そこから様々なことを学び、充実した時を過ごせたことに感謝したい。

の、喜びや悲しみを心から分かちあえる多くの友人にめぐり会えたこと。私が悩んだ時はみんなでお互いに励ましあつた。四年生で参加した卒業記念ミュージカルではさらに多くの友人と出会うことができた。ミュージカルをしていく中でみんながお互いを思いやり、一

お仕事拝見

災害に負けないまち、防災意識の高いまちをつくらう!!

突然ですが、皆さんにお伺いします。

近い将来発生が心配されている東海・東南海・南海地震に対する関心をお持ちですか? 「関心がある。心配をしている」など、多くの方は、このように答えていた



中村龍平 総務部参事(危機管理課長)

まで経験したことのない大きな揺れを感じたり、津波警報の発表を聞かれた際は、津波による浸水が想定される区域外のより高い所への避難を心がけていただきますようお願いいたします。

災害時、あなたたちの若い力で災害弱者を守ってあげてください。それにはまず、あなたたちが被災することがないように、普段から防災意識と準備を怠らないようお願いいたします。

最後にになりますが、これからも地震への関心を自助の取り組みに結びつけていただくよう、啓発活動などを継続的に行つてまいります。皆さんも、地域で行われる防災訓練には、積極的に参加していただきますようお願いいたします。

いつでも、どこでも、だれでも災害にあつた時代です。一緒に頑張って、伊勢市の防災力を高めていきましょう。

達成感を感じたミュージカル

教育学部教育学科 小林美穂



大学生活は素敵な出会いがたくさんあった。まづボランティアサークルで一緒に行動した保護者の方々や教育実習でお世話になった先生、そして、多くの子どもたち。活動

を送った。答辞を読んだ中谷賢司君は、「生きる糧を与えられた三年間だった」と学校生活を振り返り、「仲間との絆を深めた皇高祭、日本の心や礼節を学んだ神宮参拝、北方

の、喜びや悲しみを心から分かちあえる多くの友人にめぐり会えたこと。私が悩んだ時はみんなでお互いに励ましあつた。四年生で参加した卒業記念ミュージカルではさらに多くの友人と出会うことができた。ミュージカルをしていく中でみんながお互いを思いやり、一

の、喜びや悲しみを心から分かちあえる多くの友人にめぐり会えたこと。私が悩んだ時はみんなでお互いに励ましあつた。四年生で参加した卒業記念ミュージカルではさらに多くの友人と出会うことができた。ミュージカルをしていく中でみんながお互いを思いやり、一

人生の指針を学んだ三年間

皇學館高校卒業式

穏やかな気候に包まれた三月一日、皇學館大学



希望に満ちた生徒たち。四月からはそれぞれの道に進む。

記念講堂において皇學館高校第四十七回卒業式が執り行われた。令旨奉読、卒業証書および賞状授与に続いて式辞に立った中村貴史学校長はゲーテの詩を引用しながら、「嬉しいことも悲しいことも、

花起しの雨が降り注いだ三月十七日、皇學館中学校・平成二十三年度卒業式がセミナーホールにおいて執り行われた。この二日前の三月十五日には「三年生を送る

家族、先生、友に感謝

皇學館中学校卒業式

会が催され、オリジナルペンゲームや学年別の合唱などで盛り上がったものの、いざ卒業式本番を迎えるとしんみりした雰囲気。校歌斉唱の際にはあふれる涙をぬぐ

め、実行委員の仲間や教職員の方々や協力しながら皇高祭を盛り上げ、「人と人を結ぶ」という思いを込めたテーマにふさわしい、素晴らしいものとなった。この最後の皇高祭は、私だけでなく、社会福祉学部の学生や名張市民の方々など多くの人がよって支えられ、一番印象に残る皇高祭になったと思う。特に私は、

いながら歌う女子生徒も多く、退場行進では晴れやかな顔、目を真っ赤にした顔など、さまざまな表情が見られた。式後はセミナーホールで担任の先生が制作した卒業記念ムービーを上映。保護者の皆様とともに三年間の思い出に浸り、卒業生も先生も一緒になって涙を流していた。

武両道をめざしたい、と笑顔で答えていた。



中村校長の式辞に耳を傾ける生徒たち

# 手作り餃子で食の交流

## 国際交流企画・日中の学生が春節の集い

中国正月(春節)から間もない二月二十一日、八号館で日中の学生が一緒に餃子を作る会を催した。本学の留学生約三十名のうち、九割が中国人。これまで日本人学生と交流するイベントはあまりなかったが、今回も料理を作ったり食べたりしたことで、互いの国の食文化や風習を知り合いの機会になったようだ。



初対面の人同士でも交流しやすいのが、一緒に料理を作ったり食べたりすること。日中両国になじみ深い餃子作りを通して会話も弾んだ。

中国の餃子は、日本とくく春節を迎える年越しの晩は、家族で餃子を食べる習慣になっている。そんな風習を紹介しながら交流を深めようと国際交流委員会が企画された今回の集いでは、張磊文学部教授指導のもと、中国人留学生約二十人と日本人学生約三十人が協力して皮の生地から手作りすることに。具材は白菜、シイタケ、ニラ、豚ミンチ肉だ。水気があると皮が破れてしまうため、白菜はミジン切りした後、塩でもみ、布巾で絞って水分を取ってから他の材料と混ぜる。その際、油を

少し入れることによって、水気が出ないようにするなど、本場の餃子作りには日本人学生やサポートした教職員も感心しきりだった。最初は別々に集まっていた日中の学生たちも、餃子を作るうちに談笑しながら作るようになった。コミュニケーション学科三年の崔潤発君は「みんなと一緒に餃子を作れて楽しいです。太極拳も教えていますが、これらの活動を通して中国語や中国の文化に興味を持ってくれるのがうれしい」と話し、国文学科四年の岡村なぎささんは「中国では春節で餃子作りをするときに一つだけコインやピーナッツを入れておき、当たった人は一年間幸運



卒業前の思い出にと参加した岡村さん(写真上)。太極拳も教えている崔君。

# 学生が環境について意見交換

## 「環境ミーティング」開催

伊勢市との「連携協力に関する協定」に基づき、環境施策について意見を交わす「環境ミーティング」が二月二十七日に本学記念館において開催された。当日は伊勢市環境課の四名が来学、本学からは深草教育学部長と三年のゼミ学生九名が参加し、坂本環境課副参事の進行によりテーマに沿って活発な意見交換が行われた。



活発な意見交換が行われたミーティング

のポイ捨てや犬の糞の不始末については投票禁止の看板の代わりに小学生の絵を使用してはどうかなどのアイデアが学生から提案され、心理作戦としてよいのではないかとの話があった。このミーティングは平成二十年度から始まり今回で四回目となる。坂本副参事は「若者にはわれわれにはないアイデアがある。環境問題の啓発にもつながる」と述べ、現代社会の喫緊の課題である環境問題について、学生たちが真剣に考える絶好の機会となった。

# 学生が舞を堂々披露

## 特別公開講座「能楽への招待」



和泉式部を主人公とする能「東北」を演じる部員たち

優雅な舞や所作、謡などによって幽玄の世界に誘う能。本学では平成二十年より観世流シテ方の観世善正氏を講師に迎え、「伝統の心と技・能」の授業を行っている。そうした中、受講する学生有志が能楽同好会を作り、観世講師の指導のもと練習に励んできた。その成果を披露しようと、建国記念の日の二月十一日、本学記念館において特別公開講座「能楽への招待」が催された。



指導の観世講師(右)と初代委員長の四十川圭君

当日は、観世講師が能楽の特徴や歴史について解説した後、学生たちが「鶴亀」「経正」「狸々」など五曲の演目を披露。張りのある謡や優雅な舞で、会場を満たした約七十人の市民を魅了した。また、観世講師が「腹の底から声を出すのでとてもすっきりし、気持ちも和みますよ」と来場客を誘い、能の一節を共に謡う一幕も。観世講師は

伊勢に縁のある曲「野宮」も謡い、まるで魂が宿っているかのような声の波動の心地よさに多くの客が酔いしれた。最後に同会の新田部長があいさつをする中、会場から「これからもがんばれ!」と声援が飛んだ。観世講師によると能楽師の起源は室町時代、寺社仏閣に仕えた芸能集団。祭りのとき面を付けることにより神様に成り代わり、平和や五穀豊穡を祈願したという。儀式的な能に演劇的な要素を加えて大成したのが観阿弥と世阿弥で、起承転結のあるシナリオとし、親子の情愛や戦いのはかなさなどテーマを盛り込んだことで能の発展につながり、今日まで受け継がれる伝統文化になった。現在、観世流に伝わ

るといふアイデアだ。町に暮らす高齢者のさまざまなニーズにこたえるこのフランは今回以後援いただいた伊勢商工会議所より新たに設けられた伊勢商工会議所会頭賞も受賞する快挙を達成し、三人とも満面の笑みで表彰式に臨んでいた。コンテストの結果は以下の通り。

# 本学二年生チームがダブル受賞

## 第四回皇一リーグランプリを開催



賞状を手に、喜びの表情を見せる参加者たち

一月二十一日、本学において第四回皇學館大学ビジネスプランコンテスト大会(通称「皇一リーグランプリ」)が開催された。本大会の審査方法は書類選考、公開プレゼンテーションの二段階。昨年の秋、三重県とその近隣の高校生・大学生を対象にビジネスプランを募集したところ一〇九件の応募があり、審査の結果、うち八組が二次審査すな

わち今回の公開プレゼンテーション大会に進出した。各組とも持ち時間は五分。経営コンサルタントなど六名の審査員の前でプレゼンテーションを行い、その後質疑応答をこなす。地域社会への貢献性や継続性など厳選した審査の結果、優勝したのは本学現代日本社会学科二年の中林紗矢佳さん、井上綾佳さん、山崎理沙さんの「スマイル」。



プレゼン能力も年々向上

- 一位「スマイル」届けます!! 移動販売ビジネス  
本学現代日本社会学部二年 中林紗矢佳、井上綾佳、山崎理沙
- 二位「災害サバイバルスクール」  
本学現代日本社会学部二年 牧田拓也
- 三位「シルバーベビーシッター」  
鈴鹿高等学校一年 鈴木茉莉子

# 日中韓研究者18名が名張に集う

篠田学術振興基金

## 日中韓三国地域福祉文化研究交流会報告



研究報告会での発題風景

一月六日から八日にかけて、名張市総合福祉センターふれあいを主会場に日中韓三国地域福祉文化研究交流会が開催された。二十二年度の学校法人皇學館・篠田学術振興基金の助成を受け進められてきた同事業。そのまとめとなる今回は総勢十八名の研究者が参加。それぞれの国の福祉事情や福祉文化の方向性を話し合う、有意義な機会となった。

七日に催された研究交流会は①研究報告 ②特別セミナー ③シンポジウムと三つに分かれ、総勢十八名の研究者が自国の福祉事情や福祉文化を基に活発な議論を交わした。交流会終了後の懇親会では清水潔学長が三万国による学術交流が意義あるものへ更に進展することを期待したいと挨拶を述べた。

また、同市やなせ宿旧細川邸)で八日に行われた地域交流会では錦生地区におけるコミュニティ

パスの運営を通じた地域づくりを福本房生・滝川晋の両氏が報告。この日は住民の皆さんによる餅つき行事があり、中国、韓国の研究者もふるさと

感謝と福祉研究の広がりをお伝えしていくためにもある。亀井利克市長をはじめ、ご参加いただいた来賓各位、開催にあたりご尽力いただいた同市



新春もちつき大会に参加した中国研究者

### 研究交流会プログラム

#### ① 研究報告

各国における家族・女性と福祉課題

【司会】櫻井治男(社会福祉学部以下、社福)教授

【発題者】

守本友美(現代日本社会学部(以下、現日)教授)

趙剛(中国社会科学院日本研究所(以下、中国)

李匡練(嘉泉大学校教授)

野尻京子(現日准教授)

胡澎(中国社会科学院所員)

#### ② 特別セミナー

アジア文化と福祉の普遍性と特殊性

【司会】宮城洋一郎(社福教授)

【発題者】

李仁幸(国立ソウル教育大学教授)

板井正奇(現日准教授)

丁英順(中国社会科学院所員)

#### ③ シンポジウム

アジア的福祉文化の構造と課題

【コーディネーター】筒井琢磨(現日教授)

【発題とパネラー】

宮城洋一郎

関根薫(現日准教授)

王偉(中国社会科学院社会室室長)

唐永亮(中国社会科学院所員)

関根英行(嘉泉大学校教授)

【モデレーター】

岩井洋(帝塚山大学経済学部教授・副学長)

### 現代日本社会学部

## 現代日本塾 & 立志塾を開催

現代日本社会学部では日本を動かす人材を確実に育てるステップとして、多彩な教育プログラムを展開している。今回は、第15回「現代日本塾」、第4回「立志塾」の模様を紹介する。



豊富な資料でご講義される銭谷眞美先生

### 現代日本塾 第十五回

#### 博物館と日本の文化

講師 ● 銭谷眞美先生  
東京国立博物館館長・元文部科学事務次官

東京国立博物館館長の銭谷眞美先生を講師に迎え、第十五回「現代日本塾」が一月二十六日、開催された。

銭谷先生はまず「博物館とはいかなる存在であるのか」を博物館法の定義から説明。具体的な役割として「文化財の保護」「教育機関」の二点を挙



### 教育機関としての博物館の役割を再認識

愛するともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を「養うこと」との精神に基

### 大局観をもって生きよ

#### 立志塾 第四回

#### 「観」をもつということ

——国家観から職業観までを考える——

講師 ● 田尾憲男先生  
本学客員教授・鉄道情報システム常務監査役

二月十日、現代日本社会学部主催による第四回「立志塾」が開かれた。講演の中で、大局観をもって生きていくことの重要性を説いた講師の田尾憲男先生。日本国民、また皇學館大学の学生に



皇學館大学の学生にふさわしい国家観として教育勅諭を解説していただいた

では、長年にわたる人事担当者としての経験から「面接官は志願者の人間性を見極めようと質問している。したがって志願者のほつから人間性を具体的にアピールする努力が必要」と助言された。

受講者からは「日本の国家観について学ぶことができた」「教育勅諭を理解し、自分のものにする」ということで人として大きくなれると思った「面接者からの視点を聞くことができた」「就職活動で自分の生活信条をアピールできるよ

### 約三百点の名品が一堂に

#### 「伊勢の伝統工芸」シンポジウム+展示

二月四・五日の両日、本学を会場に伊勢市などが主催する「伊勢の伝統工芸」シンポジウム+展示が開催された。記念館に設置された展示会では神具をはじめ一刀彫、根付、春慶塗、真珠加工など二十

二月四・五日の両日、本学を会場に伊勢市などが主催する座敷では浅沼博・本学特別招聘教授(茶道裏千家正教授)の指導のもと、授業「文化継承実習『茶道』」を履修する現代日本社会学部の学生(一・二



記念講堂でのパネルディスカッション

生(一)の基調講演「美術工芸の伝承と再生」のほか、映像紹介、パネルディスカッション「伝統工芸技術と現代の産業」が行われた。パネルディスカッションでは本学・現代日本社会学部の岩崎正彌准教授がコーディネーターとなり、パネ

リストに橋川史宏氏(伊勢福祉社長)、神原佑司氏(漆芸指導員)、元神宮司麿造宮司(装束部長)、野嶋峰男氏(木漆作家)、鈴木節氏(染織作家)、鈴木健一氏(伊勢市長)を迎えて、それぞれの立場から積極的な意見交換をした。最後にコーディネーターの西山厚先生が「遷宮は地域活性のチャンス。そのために伊勢の人がまず伊勢の伝統工芸の魅力を知り、伝え、さらに力を合わせる」ことが大切」と指摘。四百数十名の聴衆の皆様とともに、伊勢の伝統工芸の今後の発展への方策を考

# 初めての神宮参拝



肅々と参拝する生徒たち

十二月十六日、厳しい寒さの中、神宮参拝が行われた。六月の月次祭は雨天で中止となったため、今回が三年生になって初めての参拝になる。宇治橋を渡り、正宮に向かう道すがら、私たち生徒はそれぞれ思いを胸に玉砂利を踏みしめた。すでに進路が決

定している生徒は入試が無事に終了したという報告と感謝の思い、一方、センター試験を目前に控えている生徒は合格を祈願したりと、様々な立場での参拝となった。神宮は平成二十五年に式年遷宮を迎える。私が入学した年には宇治橋が建て替えられた。あれから二年、今回は新しいお社に続く階段が完成さ

れており、着々と遷宮のための準備が進められていた。二年後、私たちは二十歳となる。卒業後は三重を離れる生徒も多いだろう。しかし、式年遷宮の年に成人式を迎えられることは、とても光栄なことだ。私自身、県外の大学を志望しているが、成人式には必ず帰省し、大人への決意を胸に神宮にお参りしたいと思う。

三年八組 中谷賢司

# クラリネット四重奏で銀賞

## 東海アンサンブルコンテスト

二月十二日、私たち吹奏楽部は愛知県豊田市民文化会館で開催された東海アンサンブルコンテストのクラリネット四重奏部門に出場し、銀賞を受賞することができた。

大会前日には壮行会が行われ、一人ひとりのメッセージが書かれた色紙や手作りの鞆が手渡され、最高の仲間たちが支えられていることを実感し、嬉しかった。大会では決して満足のいく演奏ではな

かったものの、銀賞を受賞できたことほども良い経験になったと思う。普段は部員同士とても仲が良く、時に厳しい意見を出し合い、常に自分達の演奏を見直しながら活動していることもよかったのだろう。

これも、応援してくれた皆さん、ご指導してくださった先生方をはじめ、本当に多くの方々のご支援の賜物だ。これからも、皇學館高校生であるという誇りを胸に、精一杯頑張りたい。

二年一組 森岡果奈



銀賞受賞、向かって左より柴田さん、森岡さん、松山さん、清水さんの4人

# チーム全員が気持ちをついに

## 第四十回記念全国高等学校選抜バドミントン大会

皇學館高校女子バドミントン部は、広島県で三月二十四日から二十七日にかけて開催された第四十回記念全国高等学校選抜バドミントン大会に出場した。

大会には各都道府県の代表高校が集まっており、レベルの高い試合ばかりが行われた。試合は学校対抗のリーグ

戦で行われ、私たちは和歌山県と北海道の代表高校と対戦。和歌山県代表の耐久高等学校には三対二、北海道代表の札幌静修高等学校には三対〇で敗れたものの、これからの課題を見つけることができたのは大きな収穫だったと思う。また、力のある選手や学校と対戦できたことや、学校対抗だったためチーム全員が気持ちを一つにして取り組めた点もよかった。試合前にはメンバーそれぞれがチームのために何ができるかを考え、行動し、全員で勝利をつかもうと強く心に決めた。

最後に、この大会に出場できたことを誇りに思い、周りへの感謝を常に忘れず、一生懸命練習に励みたいと思う。

二年六組 向原怜奈



試合後はチームの団結力もアップ!

# 皇中NEWS



過去の経験などを通して人権学習の大切さを伝える濱口先生

三月七日の五限目、人権学習として伊勢市朝熊教育集会所指導員の濱口愛先生に「私のまちから学んだこと」と題し講演して頂いた。濱口先生は学生時代、地元の名前を出すことが嫌で仕方なかったが、教育集会所に動めてからは、まちの人の思いを知り、まちを誇りに思うようになり、隠す必要がないことに気が

# 伝統文化、邦楽に親しむ

## 能楽囃子体験教室

日本の伝統文化に触れ合うことで邦楽に親しむと、二月二十一日、能楽協会の方に来ていただき能楽囃子体験教室を開いた。舞、能管、小鼓、大鼓、太鼓と五人の先生が前に並ぶと、ささやく演奏開始。迫力ある太鼓の音や響き渡る能管の高い音、五メートル四方の



楽器体験(小鼓)

空間での堂々たる舞に圧倒された。その後、能の歴史や楽器についてのユーモア溢れる説明に生徒たちも興味が高まり、能の世界にますます引き込まれたよう。演奏体験をした数名の生徒は音を出すのに苦労していたが、一生懸命挑戦していた。能の世界を身近に感じ、楽しみながら日本の伝統文化に触れた一日だった。

# 皇高NEWS

# 五十三名が笑顔でスキー研修



班で協力! 雪だるま作り

二月五日から二泊三日のスキー研修を前に、「インフルエンスザが大流行」というニュース。感染する生徒がいるのではと戦々恐々とする日々を過ごしていた。当日の朝、そんな不安は一蹴され、無事五十三名全員が笑顔で菅平高原スキー場へ向かうことができた。往路、七時間余りにもなる長旅。その疲れは、見慣れぬ雪景色があっさり解消してくれた。

初日は班対抗の「雪だるま作りコンテスト」を行った。日常では滅多に出来ないような雪だるま作り。ス。感染する生徒がいるのではと戦々恐々とする日々を過ごしていた。当日の朝、そんな不安は一蹴され、無事五十三名全員が笑顔で菅平高原スキー場へ向かうことができた。往路、七時間余りにもなる長旅。その疲れは、見慣れぬ雪景色があっさり解消してくれた。

最終日、水点下二十度を記録した前週が信じられないくらい暖かかった。そのため、雪ではなく朝から雨が降り続いた。しかし、多少の視界の悪さがあったものの、二日目よりもさらに上達し、十分にスキーを楽しむことができた。この研修を通して、生徒たちは数多くのことを学ぶことができたようだ。スキーの楽しさはもちろん、集団行動の難しさも大切で、そして愉しみ。大人への階段を上る生徒たちにとって、この三日間がかげがえのないものになったであろうことを確信している。

二年B組担任 服部篤志

# 意見交換でより充実した内容に

## 人権学習

三月七日の五限目、人権学習として伊勢市朝熊教育集会所指導員の濱口愛先生に「私のまちから学んだこと」と題し講演して頂いた。濱口先生は学生時代、地元の名前を出すことが嫌で仕方なかったが、教育集会所に動めてからは、まちの人の思いを知り、まちを誇りに思うようになり、隠す必要がないことに気が

付いたそうだ。部落差別問題について正しい知識を持ち、それを伝えていくことで差別を無くしていくことが大切だと教えてくれた。「誰だって隠したいと思うことはある。で

も大人しく控えめだった私が今では人前で話せるようになった。人は変わる。良いことは行動に移し周りと共有し、差別をなくしていきたい」と語った。

六限目は、各クラスで講演の中で一番心に残ったことと、その理由について話し合った。濱口先生が学生時代から現在の気持ちの移り変わりを詳しく話してくれたおかげで、「差別をなくそう」という漠然とした発想ではなく、より具体的に自分ごととして考えていく大切さを学ぶことが出来たようだ。講演を聴くだけでなくその後意見交換が行えた事でより深く考えられ、充実した学習が行えた。

# 日本人の心の礎を探る

## 建国の日の記念講演会を開催

二月十一日の「建国記念の日」を前に、毎年皇學館高校・中学が共催している記念講演会。今年



国民が一つの家族のように安心して暮らせる理想の国を志した神武天皇の建国の精神が、日本人の支えになっていると説く清水学長

は清水学長による「建国の精神を仰ぐ」と題した講演が十日、記念講演会にて行われた。

千人以上の生徒が静かに耳を傾けるなか、国を愛する心を養う「建国記念の日」が昭和四十一年に国民の祝日に加えられた経緯を説明する清水学長。どの日を「建国記念の日」に当てるか、当時さまざまな提案があったものの、日本書紀に神武天皇が「辛酉年春正月庚辰朔（現在の太陽暦で紀元前六百六十年二月十一日）に初代天皇として即位したと伝わることから、建国をしのぶ最もふさわしい日として二月十一日が定められたという。そして、幾多の苦難を経てようやく大和に理

想の国を創った神武天皇が掲げた「建国の詔」を紹介。その中の「上は則ち乾霊の国を授けたまひし徳に答へ、下は即ち皇孫の正しきを養ひたまひし心を弘めむ。然して後に、六台を兼ねて以つて都を開き、八紘を掩ひ

て宇と為すこと、亦よからずや」などの文言について、「国民の幸福を第一に考え、祖先の御恩に報い、正しい国のあり方を伝えようとする精神であり、天下をおおつて一つの家族のように人びとが安心して暮らせる一大共同体となることを国家の理想とした」と解説した。

その精神は歴代の天皇に受け継がれ、壬申の乱や明治維新などわが国の歴史が大きく転換する際にも景仰されてきた。そして昨年三月十一日に起こった東日本大震災において示された今上陛下の御言葉や御姿は、この建国の精神を今に顕現せられたもので、私たち日本人の精神的な支えになることが示された。

古事記や日本書紀を引用するなど中学生には難しい話もあったが、「今まで建国記念の日はただの休日だと思っていましたが、いろんな日が候補に挙がり、それぞれ意味があるなかで二月十一日に決まったという話を聞いて、建国記念の日への見方が変わりました。皇學館高校二年五組の矢野翔大君（なま）も、生徒一人ひとりが日本という国について思いを馳せた。

語をする子どもは、日本に比べ、より主体的に教育を受けている印象でした。

### 体験インタビュー アメリカ短期海外研修&ホームステイプログラム 充実のカギは「目的意識」

二月十五日から三月五日にかけて、十八泊二十日のアメリカ短期海外研修&ホームステイプログラムが実施された。滞在研修地域はロサンゼルス近郊のサウスベイ地区。今回は、アシスタントティーチャーとして参加した教育学科三年の中北達也君に話を聞いた。

各日とも 時間●午後2時より 場所●4号館431教室

二人以上の生徒が静かに耳を傾けるなか、国を愛する心を養う「建国記念の日」が昭和四十一年に国民の祝日に加えられた経緯を説明する清水学長。どの日を「建国記念の日」に当てるか、当時さまざまな提案があったものの、日本書紀に神武天皇が「辛酉年春正月庚辰朔（現在の太陽暦で紀元前六百六十年二月十一日）に初代天皇として即位したと伝わることから、建国をしのぶ最もふさわしい日として二月十一日が定められたという。そして、幾多の苦難を経てようやく大和に理

想の国を創った神武天皇が掲げた「建国の詔」を紹介。その中の「上は則ち乾霊の国を授けたまひし徳に答へ、下は即ち皇孫の正しきを養ひたまひし心を弘めむ。然して後に、六台を兼ねて以つて都を開き、八紘を掩ひ

て宇と為すこと、亦よからずや」などの文言について、「国民の幸福を第一に考え、祖先の御恩に報い、正しい国のあり方を伝えようとする精神であり、天下をおおつて一つの家族のように人びとが安心して暮らせる一大共同体となることを国家の理想とした」と解説した。

その精神は歴代の天皇に受け継がれ、壬申の乱や明治維新などわが国の歴史が大きく転換する際にも景仰されてきた。そして昨年三月十一日に起こった東日本大震災において示された今上陛下の御言葉や御姿は、この建国の精神を今に顕現せられたもので、私たち日本人の精神的な支えになることが示された。

古事記や日本書紀を引用するなど中学生には難しい話もあったが、「今まで建国記念の日はただの休日だと思っていましたが、いろんな日が候補に挙がり、それぞれ意味があるなかで二月十一日に決まったという話を聞いて、建国記念の日への見方が変わりました。皇學館高校二年五組の矢野翔大君（なま）も、生徒一人ひとりが日本という国について思いを馳せた。

語をする子どもは、日本に比べ、より主体的に教育を受けている印象でした。

### 体験インタビュー アメリカ短期海外研修&ホームステイプログラム 充実のカギは「目的意識」

二月十五日から三月五日にかけて、十八泊二十日のアメリカ短期海外研修&ホームステイプログラムが実施された。滞在研修地域はロサンゼルス近郊のサウスベイ地区。今回は、アシスタントティーチャーとして参加した教育学科三年の中北達也君に話を聞いた。

各日とも 時間●午後2時より 場所●4号館431教室

### 創立百三十周年・再興五十周年記念事業 寄付者芳名

二月二十九日現在の募金状況は次の通りです。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

区分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	634	777,747,000	770,757,000
館友	731	81,504,000	79,289,000
篤志家	53	39,570,000	39,450,000
萼の会	1,889	101,101,000	101,101,000
企業	105	62,790,000	61,400,000
本法人関係	260	60,392,000	60,052,000
合計	3,672	1,123,104,000	1,112,049,000

- 宗教界(神社界)**
  - 和歌山県 五十万円(二十五万円増額) 紀州東照宮様
- 館友**
  - 愛知県 十万円 入江 国明様
  - 神奈川県 五十万円 田尾 憲男様
  - 三重県 三万円 本郷 朱美様
  - 奈良県 三万円 太田 豊文様
  - 萼の会(保護者の会) 五万円 小田 隆政様
  - 現代日本社会学科 三万円

- 企業**
  - 新潟県 十万円 竹井機器工業(株)様
  - 三重県 十万円(五万円増額) シラセ(株)様
  - 一万円(五万円増額) (有)南勢電気商会様

**訂正とお詫び**  
前号(第36号)の寄付者名簿につきまして左記の間違いがありました。ここに訂正し、お詫びいたします。  
【館友】  
⑤五万円 竹内 真哉様  
⑥五万円 出原 真哉様

◆同プログラムに参加した動機は？  
中北 「小学校の語学教育」をテーマに卒論を書こうと思っていて、海外の授業を体験できれば何か学べるんじゃないかと考え参加しました。  
◆アメリカの授業を実際に見てきて、発見はありましたか？  
中北 語学教育に関しては移民向けの授業が参考になりました。アメリカは移民が多く、話すことはできて読み書きは

◆日本との違いは？  
中北 アメリカは学校だけでなく、担任の先生まで選んでくれます。自分に合った「教育を受ける権利」が徹底しているんですね。その分、義務も負っていて、授業の邪魔をする行為は契約違反となるので退学させられても文句はいえませんが、私

### 平成24年度 皇學館大学 月例文化講座のご案内 (聴講料無料)

- 年間テーマ●文化とことば**  
担当●コミュニケーション学科
- 第1回 5/12(土)** 教授 豊住 誠  
**日本人はなぜ英語が苦手なのか**  
中学校、高等学校、大学と通算8年間も英語の勉強をしたはずなのになかなか英語が上達しない…。企業では英語の社内公用語化が進む中で、悩みは増すばかりです。英語力が思うように伸びないのは、努力が足りないからなのでしょうか。この講座では、英語の構造や、教え方、そして日本のおかれている「場」といった観点からその原因を考えてみたいと思います。
- 第2回 6/9(土)** 講師 前田至剛  
**ケータイ文化とつながり確認のことば**  
私たちは携帯電話を様々な目的に利用していますが、通話とメールでは若干利用目的が異なります。メールはどちらかというと、いつでもどこでも、都合のよく、他者とのつながりを確認するために利用されやすい傾向にあります。そのため一日何十通と受信する人も少なくありません。それは依存症なの
- 第3回 7/14(土)** 教授 児玉玲子  
**英語はどこからきたのか?—英語の起源をさぐる—**  
世界には多くの言語が存在し、その数は3,000語とも5,000語とも言われています。その中で、小さな島国で話されていた英語がどうして国際語となったのでしょうか。5世紀にゲルマン系民族によって生まれた古英語から現代英語にいたるまでの、波乱に富んだ英語の歴史を振り返ってみます。そのなかで、私たちの馴染みのある英単語の起源や由来、あるいはそこに存在する日本語との発想の違いなどもお話したいと思います。
- 第4回 9/8(土)** 教授 池田久代  
**岡倉天心とアメリカ—真の国際性とは—**  
19世紀末から20世紀初頭にかけて、岡倉天心の海外活動が本格的に始まりました。インド、中国、アメリカ、イギリス、ヨーロッパを歩き、日本美術とアジア文

明を西欧に喧伝した岡倉の足跡を、特にアメリカにおける仕事と人脈という観点から辿ります。1893年のシカゴ万国博覧会の日本館「鳳凰殿」展示や1904年のセントルイス万国博覧会の学会会議での講演など、岡倉の西欧への日本文化・美術紹介の功績は大きいです。本講座ではボストン美術館勤務時代の岡倉の活動を紹介して、その先鋭的な国際意識・国際性について考えます。

### 第5回 10/13(土) 教授 外山秀一

**アホ・バカ分布と日本文化**  
日本の文化は、東西性やアホ・バカ分布にみられるように周縁論、そして複合発展論などに特徴づけられます。ここでは、日本文化の東西性を地形などの自然的要因や通婚圏などの人為的要因から検討するとともに、アホ・バカ分布に基づいて言語文化の波及のあり方を理解し、多様な日本の文化の特徴を考えてゆきます。

### 第6回 11/17(土) 教授 山田やす子

**ことばと文化の諸相**  
「言語相対説」という考え方があります。異なった言語を話す人は、物の見方も認識の仕方も相対的に

違ったものになる、という仮説です。この仮説についてはまだに議論がなされていますが、異なる言語間での通訳や翻訳においては往々にしてこの問題が生じてきます。本講座では、文化とことばについて様々な観点からお話しし、また、国連とEUの公用語の比較などを通して、文化におけることばの重要性についても考えたいと思います。

### 第7回 12/8(土) 教授 張 磊

**中国の茶文化について**  
三大飲料と云われる「お茶」「珈琲」「ココア」の一つであるお茶は数千年の歴史を誇ります。中国の乾隆という皇帝が「国不可一日無君、君不可一日無茶」だといほどでした。お茶は薬用から食用へという長い歴史を経て、今欠かせない日常必需品になってきました。中国はお茶の植栽・培養・製造・品茶・応用及び茶文化の形成において人類文明に大いに貢献しました。源を辿ると世界に行き渡った茶種や栽培方法、茶葉加工技術、品茶方法、茶礼・茶儀・茶俗・茶風・茶芸・茶会・茶道・茶徳等は、ほとんど直接的間接的に中国から広がって行ったわけです。本講演は中国の茶文化について紹介します。

### 教員免許状更新講習のご案内

平成24年度受講対象は、平成25年および26年3月31日に修了確認期限を迎える現職教員等です。

#### 受付期間

第一次	5月28日(月)16時～6月2日(土)15時
第二次	6月11日(月)16時～6月13日(水)15時

#### 受講対象者

平成25年・26年3月31日現在の年齢	生年月日
満35歳	昭和52.4.2～昭和54.4.1
満45歳	昭和42.4.2～昭和44.4.1
満55歳	昭和32.4.2～昭和34.4.1

※講習の内容・お申し込み方法などの詳細は本学HPをご参照ください。

<http://www.kogakkan-u.ac.jp>

#### 会場と開講スケジュール

伊勢会場	皇學館大学
必須領域	8月20日(月)・21日(火)
選択領域	8月22日(水)・23日(木)・24日(金)
四日市会場	じばさん三重 (近鉄四日市駅前)
必須領域	8月20日(月)・21日(火)
選択領域	8月23日(木)・24日(金)・25日(土)or 26日(日) ※25日(土)or 26日(日)は、どちらか1日受講

詳細・問合せは **学生支援部 教職支援担当**  
TEL 0596-22-6049 FAX 0596-21-0541  
E-mail kyoshoku@kogakkan-u.ac.jp

### 近鉄文化サロン・皇學館大学 共催講座のご案内

#### 古事記を読む

【講師】白山芳太郎 神道学科教授

- 4/14(土) ●天若日子命の反逆
- 5/12(土) ●建御雷命の派遣
- 6/9(土) ●建御名方命
- 7/14(土) ●ニギノミコトの誕生
- 8/11(土) ●猿女氏命名のいわれ
- 9/8(土) ●海幸彦山幸彦

#### 神道と仏教

【講師】河野訓 神道学科教授

- 4/7(土) ●吉野における神仏習合と神仏分離
- 5/19(土) ●石上神社と内山永久寺
- 6/23(土) ●伊勢・外宮と仏教
- 7/21(土) ●伊勢・内宮と仏教
- 8/4(土) ●高野山における神仏関係
- 9/22(土) ●北野天満宮における神仏習合と神仏分離

時間：15時30分～17時  
受講料：月1回 6ヵ月 6000円

#### 特別公開講座

- 5/26(土) ●万葉人の信仰(1)
- 6/16(土) ●万葉人の信仰(2)  
【講師】本澤雅史 神道学科教授
- 7/28(土) ●伊勢の斎王と斎宮  
【講師】岡田登 国史学科教授
- 8/18(土) ●日本書記の神話  
【講師】大島信生 国文学科教授
- 8/25(土) ●「古事記伝兵衛」の立場  
～浪速の作家 上田秋成の論敵～  
【講師】高倉一紀 国文学科教授
- 9/1(土) ●伊勢の大神宮と式年遷宮  
【講師】岡田登 国史学科教授

いずれの講座も、時間：15時30分～17時  
受講料：会員1000円、一般1500円

お申込み・お問合せは **近鉄文化サロン安倍野**まで  
掲載講座専用 ☎0120-106-718

### 5月 イベント情報(4～5月)

- 12+ 月例文化講座 431教室  
日本人はなぜ英語が苦手なのか  
●豊住誠 コミュニケーション学科教授
- 19+ 神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室  
伊勢の神宮を語る I—日本文化の源流を考える—  
「神々と神社宝物の精華(仮称)」  
●岡田芳幸 佐川記念神道博物館学芸員・教授

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認くださいませようお願いします。
- 神道博物館教養講座は、事前のお申し込みが必要となります【先着順】。お問い合わせは ☎0596-22-6471)へお願い致します。
- その他お問い合わせは、皇學館大学企画部 ☎0596-22-6496)へお願い致します。

◆卒業おめでとう!!  
今号の学園報「卒業生随想」のなか、留學した際に、クラスメイト「日本の文化について問われたが答えられず、「異文化を理解する前に、自国の文化を確立する必要がある」と改めて実感した」とあります。本学の建学の精神を踏まえ、「わが国の歴史・伝統を継承・究明・応用して社会の要請にこたえる」ことをこれからも忘れず、それぞれの分野で羽ばたいてほしい。皆さんの健康・活躍をお祈りしています。  
【企画部】

# 卒業記念ミュージカル「平成忍者にんにん」津での初開催に万雷の拍手



上/「体調管理にも気をつけた」と語る忍者役の篠原健太君(写真左端)  
下/感極まり、涙を流して歌う学生たち



毎年、恒例行事として人気を博している教育学部有志による卒業記念ミュージカルが二月十六日、津で初開催された。タイトルは「平成忍者にんにん」大切なモノを探して」。平日ということもあり入場が心配されたが、会場となった津総合文化センター中ホールにはおおよそ四百人が詰めかけ、有志一八〇名の熱演に万雷の拍手を送った。

**一期生として何かを残したい**

「教育学部の一期生として新しいことにチャレンジを決めた理由を語るの」

は、実行委員長を務めた廣瀬勝矢君だ。

前例がないため、後援の依頼や宣伝、会場との調整などすべてが手探りの状態。メンバーの数も一八〇名というかつてない多さで、それぞれが持つ意見や考えをまとめるのに腐心したという。そこで、廣瀬君がめざしたスタンスはピラミッドの頂点ではなく、円の中心

そんな九班・有志一八〇名の熱い思いと汗と涙がつまった舞台は一年にわたる準備・稽古の甲斐あって大成功。二時間の長丁場にかかわらず、小さい子ども最後まで舞台をくい入るよう見つめる姿が印象的だった。終演後、全員が肩を組み歌うフィナーレでは感極まって泣く学生を目にして、会場からもすすり泣く声。ハンカチで目頭を押さえる観客もいて、会場全体が感動の嵐に包まれていた。

**会場からはすすり泣く声**

先月、横浜から津へ引越してきたという三代の主婦は四歳の男の子を連れて観覧。「歌と踊りが多くて楽しかった」と言い、ルパン三世など知っている曲になると子どもも体を動かして喜んでいたら、五歳の女の子と一緒に来ていた三十代の主婦は「にんにんが登場した瞬間、完成度の高さにすげえ感動した。オリジナル脚本に挑戦した白根裕樹君は「友情」「環境」「信頼」など、場面ごとにテーマを設定した。観客一人ひとりがどこかのシーンで何か得るものがあれば、と考えてのことだ。原作がない分、縛られることなく自由に話を広げられたという。本格的なホールメンバークラスの努力も光った。

「オーディン」の演出に挑戦した白根裕樹君は「友情」「環境」「信頼」など、場面ごとにテーマを設定した。観客一人ひとりがどこかのシーンで何か得るものがあれば、と考えてのことだ。原作がない分、縛られることなく自由に話を広げられたという。本格的なホールメンバークラスの努力も光った。

「オーディン」の演出に挑戦した白根裕樹君は「友情」「環境」「信頼」など、場面ごとにテーマを設定した。観客一人ひとりがどこかのシーンで何か得るものがあれば、と考えてのことだ。原作がない分、縛られることなく自由に話を広げられたという。本格的なホールメンバークラスの努力も光った。

「オーディン」の演出に挑戦した白根裕樹君は「友情」「環境」「信頼」など、場面ごとにテーマを設定した。観客一人ひとりがどこかのシーンで何か得るものがあれば、と考えてのことだ。原作がない分、縛られることなく自由に話を広げられたという。本格的なホールメンバークラスの努力も光った。

### 創立百三十周年・再興五十周年記念行事

月日	行 事	時 間	受 付	場 所
4/28(土)	特別展「神社名宝展」 オープニングセレモニー 及び 内覧会	14:00～16:00		佐川記念神道博物館
4/29(日)	記念祭典	9:30～10:30	8:30～	総合体育館メインアリーナ
	慰霊祭	11:00～12:00	10:00～	総合体育館サブアリーナ
	記念講演会 【講師】安倍晋三氏(自由民主党 衆議院議員)	13:00～14:00		百周年記念講堂
	記念演奏会 【演奏】東儀秀樹氏(雅楽師)、本学雅楽部	14:30～15:30		百周年記念講堂
4/30(月・休)	各施設開放・見学	14:00～16:30		
	記念式典	10:30～11:30	9:30～	百周年記念講堂
	記念祝賀会	12:00～14:00		総合体育館メインアリーナ
	各施設開放・見学	14:15～15:15		

【対象】一般 記念展示・特別展につきましては、観覧無料ですので、是非ご来館下さい。

4/28(土)～30(月・休)	記念展示「神宮皇學館・神宮皇學館大学・皇學館大学—明治15年～平成24年—」	14:00～17:00		記念館
4/29(日)～5/26(土)	特別展「神社名宝展」 休館日：5/6・13・20	9:00～16:00		佐川記念神道博物館

#### 編集後記

皇學館学園報



Activity Report of 2011  
平成23年度 活動報告

1-2◆ 退任によせて	4◆ 附置研トピックス ● 神道研究所だより ● 神道博物館だより ● 館史編集室だより ● 地域福祉文化研究所だより
1-4◆ デキゴトロジー	5◆ 神社名宝展 出陳品目 記念事業学術研究部会出版物
2-3◆ 奨学金授与者	6◆ 皇學館大学の来歴 表彰一覧
3◆ 受賞等について 教職員人事	

# 退任によせて

平成二十三年度末で退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

## 柔道部の再興にかける

文学部教授 増井 節郎

本年三月末をもって私は大好きな倉田山を去ります。昭和四十年に四期生として入学してから四十七年、人生のほとんどを倉田山で過ごしました。楽しいことも苦しいことも思い悩んだこともすべて倉田山と共にあります。顧みると高校三年時に歴史を学ぶなら皇學館大学に行けとの担任の命令に近い言葉で入学しました。一年生の時に先輩から神宮皇學館から続く柔道部を再興しろと言われ、真剣に柔道に向き合った時、柔道の奥深さに取りつかれてしまいました。その後、当時の常任理事であられた故高松清氏の後押しで柔道が正課になり、柔道部後援会の尽力で柔道場も建ち、卒業と同時に柔道の教員としてス

## 皇學館大学の発展の中で

教育学部教授 掛本 勲夫

私は三月末に皇學館大学を退職いたします。昭和五十八年四月から二十九年間、皆様の温かいご支援とご厚情をいただき充実した生活を送ることができました。ありがとうございます。今この二十九年を振り返って見ますと、この時期は皇學館大学が大きく発展した時期でした。私の着任の前年には創設百周年を迎えて、新たな発展へ向かって歩み始めていたところで

## 教育学部の創設に関わり光栄

教育学部教授 松村 勝順

平成二十年四月から四年間、前途有為な学生の皆さんと研鑽を深めることができ、充実した毎日でした。特に、教育学部の創設に関わらせていただきましたことを大変光栄に思っております。皇學館大学が今後ますます発展し、大きく羽ばたいていくことを心から祈念しております。

## 成熟の時代を生き抜く知恵を

社会福祉学部准教授 室田 一樹

研究室から持ち帰った本の中から『地域の遺伝をみかぐ』内山節・出島二郎・中谷健太郎著(蒼天社出版)、『地域神社の宗教学』櫻井治男著(弘文堂)、『創造的福祉社会』広井良典著(ちくま新書)、『さあ、あいの神道文化』板井正斉著(弘文堂)の四冊を机の上に置きました。ここには共通して、混迷する時代を救う未来像が隠されていると期待しています。内山氏の帯には、「村・都市・ローカルな思想をつくる」とあり、広井氏の副題には、「成長」後の社会構造と人間・地域・価値」と書かれています。櫻井氏の帯は「地域の共

## 運命をデザインする

社会福祉学部准教授 森岡 純子

私は、保育士・幼稚園教諭資格取得のために必要な音楽の授業を担当、表現研究では近隣の児童福祉施設や幼稚園のこともたちをお招きして人形劇を上演させていただきました。名張学舎で授業をしていた頃は、幼稚園に向いて人形劇での交流をしたり、オートバックの交流をしたり、奈良名名張店のご支援のもと、奈良県御所市でのキッズフェスティバルに参加、青山町陽だまり文庫でのクリスマスイベント参加

# デキゴトロジー

行事日誌

- 4月 入学式
- 4月 9日 共催講座(古事記を読む「天地初発」) 白山芳太郎(文学部教授)
- 4月 9日 春学期通常講義開始
- 4月 11日 月例神宮参拝
- 4月 23日 共催講座(神道と仏教「神仏習合の諸相」) 本地垂迹思想(河野訓(文学部教授))
- 5月 12日 現代日本塾(これからの時代の公務員に求められる志)
- 5月 12日 中野剛志(経済産業省・京都大学准教授)
- 5月 14日 月例文化講座(世界的気候変動の中の日本史) 深草正博(教育学部長)
- 5月 14日 共催講座(古事記を読む「列島誕生」) 白山芳太郎(文学部教授)
- 5月 15日 尊の会総会
- 5月 17日 月例神宮参拝
- 5月 17日 人文学研究会例会(伊勢市史「考古編」の編纂を終えて)
- 5月 21日 岡田登(文学部教授)
- 5月 21日 共催講座 特別公開講座(日本古代の罪と祓) 大祝詞講釈(1)
- 5月 21日 本澤雅史(文学部教授)
- 5月 21日 神道博物館教養講座(日本の祭り「出雲の神在祭」奉仕する者の立場から) 錦田剛志(万九千社立神道社神官・島根県神社庁主事)
- 5月 21日 学級委員任命式・高松奨励賞授賞式
- 5月 28日 共催講座(神道と仏教「神仏習合の諸相」) 権現と本地仏(河野訓(文学部教授))
- 6月 9日 史学会講演会(日本におけるポランド人墓の探査)
- 6月 9日 エフ・アワシユルコフスカワ(ワシユルコフスカワ大学東洋学部長)
- 6月 11日 月例文化講座(よりよく子どもを見守るために)
- 6月 11日 有門秀記(教育学部准教授)
- 6月 11日 共催講座(古事記を読む「イザナミミコトの死」)
- 6月 12日 白山芳太郎(文学部教授)
- 6月 12日 オープンキャンパス
- 6月 12日 伊賀市文化フォーラム2011(伊賀のことば) 齋藤平(文学部准教授)
- 6月 16日 現代日本塾(アジア太平洋学「アジア太平洋学」)
- 6月 16日 モンテカセム(立命館大学副総長・前立命館アジア太平洋大学学長)
- 6月 17日 月例神宮参拝
- 6月 17日 共催講座(神道と仏教「神仏習合の諸相」) 神前説経(河野訓(文学部教授))
- 6月 17日 名張ふるさと講座(住み続けたいと思えるまちとは)
- 6月 17日 簡井琢彦(現代日本社会学部教授)
- 6月 18日 還宮記念講演会(伊勢の神宮と天照大神) 伴五十嗣郎(文学部教授)
- 6月 18日 神道博物館教養講座(日本の祭り「白山の自然と信仰」)
- 6月 19日 村山和臣(白山比咩神社宮司)
- 6月 19日 伊賀市文化フォーラム2011(怨霊の鎮魂)
- 6月 26日 山田雄司(三重大学文学部教授)「コメント」 白山芳太郎(文学部教授)
- 7月 2日 共催講座 特別公開講座(日本古代の罪と祓) 大祝詞講釈(2)
- 7月 2日 本澤雅史(文学部教授)
- 7月 3日 第50回 祭典
- 7月 6日 国文学会講演会(日本文化私見)
- 7月 6日 劉徳潤(河南師範大学外国語学院教授) 日本文学研究所長
- 7月 9日 月例文化講座(子どもの育ちと遊び) 田口鉄久(教育学部教授)
- 7月 9日 共催講座(古事記を読む「禊ぎ」) 白山芳太郎(文学部教授)
- 7月 9日 伊賀市文化フォーラム2011(子どもたちはいま) 子どもの権利と大人の役割(榎垣博子(教育学部教授))
- 7月 11日 球技大会
- 7月 11日 教育講演会(日本が必要とするリーダーシップ)
- 7月 16日 葛西敬之(東海旅客鉄道株式会社社会長・本学客員教授)
- 7月 16日 学校見学会
- 7月 17日 共催講座 特別公開講座(戦う神主たち) 松本丘(文学部准教授)
- 7月 17日 みえアカデミックセミナー2011
- 7月 17日 「源氏物語」はいつ、誰によって作られたのか? 中川照将(文学部准教授)
- 7月 17日 「神宮の十牛図」とその周辺 松下道信(文学部講師)
- 7月 17日 神道研究所公開学術講演会(神功皇后伝説の成り立ち)
- 7月 17日 オープンキャンパス
- 7月 23日 塚口義信(堺女子短期大学名誉学長・名誉教授)
- 7月 23日 共催講座(神道と仏教「神仏分離の諸相」) 江戸時代の神道家による仏教批判(河野訓(文学部教授))
- 7月 27日 夏休み親子教室①
- 7月 27日 フォルカー・シュタイン(ドイツ在日大使) 来学 28日
- 7月 28日 現代日本塾(日独交流五十年の意義) 日本学・合気道・そして日本(フォルカー・シュタイン(ドイツ在日大使))
- 7月 30日 春学期通常講義終了
- 7月 30日 特別講座(東日本大震災と日本人の絆)
- 7月 30日 田尾憲男(鉄道情報システム常務監査役・本学客員教授 憲法・皇室法研究家)

鳥飛兎走

皇學館高校教諭 村田 貢

「鳥飛兎走」とは正しくのことです。...

最後に、皇學館高校の益々の発展と皆様のご活躍を祈願し、退任のご挨拶とさせていただきます。...

倉田山の思い出を糧に

皇學館高校教諭 井田 裕子

厳しかった寒さが続いたこの冬、何ともやわらかな陽射しに包まれた倉田山、折しも皇學館...

館友、先生のご指導に感謝

皇學館高校教諭 山本 直明

平成二十三年度をもって退任することになりました。平成二年に地歴科の非常勤講師として出発し、その後、常勤講師、教諭として勤務して、二十二年の年月が経過しました。...

平成二十三年度 奨学金授与者

学内及び学外奨学金は、それぞれの規定に基づき選考されるものです。平成二十三年度奨学金は、次の学生に授与されました。

学内奨学金授与

給付奨学金

篤志ある方々よりの寄附金を基金として、学業及び人物優秀な学生に授与されます。

- 神道学科三年 浅野 詩穂
コミュニケーション学科三年 山本 莉央
社会福祉学科三年 濱 涼祐
教育学科三年 平尾まなみ

岡田奨学金

元学校法人皇學館理事長、本学名誉教授岡田重精氏の寄附金を基に、本学の建学の精神を体し、学業及び人物優秀な者に授与される奨学金です。

- コミュニケーション学科四年 谷崎 恵
国文学科三年 田牧 史子

館友会奨学金

平成五年度に設立され、本学の同窓会である館友会より、将来有為な人物を育成するために授与されるものです。

- 国文学科二年 日野 志保
博士前期課程神道学専攻二年 吉本 美緒
博士前期課程国文学専攻三年 亀山 泰司
博士後期課程国文学専攻二年 大友 裕二
修士課程教育学専攻二年 谷口 晴香

慶光院俊奨学金

元神宮大宮司・本学常任理事でありました慶光院俊氏の寄附金を基に、特に優秀な神職を養成するために設けられた奨学金で、神職課程履修者の中から選ばれ授与されるものです。

- 神道学科三年 岡島 美緒
国文学科三年 成瀬 綾美
国史学科三年 大鷲 俊太
コミュニケーション学科三年 北村 朋子
社会福祉学科三年 大藪 綾華
教育学科三年 森 俊浩

安部奨学金

神宮皇學館本科第四十六回神道科の卒業で元諏訪神社宮司安部鷹男氏の寄附金を基に神職課程履修者の中から選ばれ授与される奨学金です。

神道学科三年 園田 恵里

尊の会教育奨励賞

保護者の会である尊の会より学業及び人物優秀な学生に対し奨励し、勉学意欲の高揚を目的として、二年〜四年の学生を対象に授与するものです。

神道学科四年 関口 諒子

また、翌年から一泊で京都のフィールドワークを実施しました。その折には館友の宮...

教員の真摯な姿勢に脱帽

皇學館高校常勤講師 上野 祐介

二年間という短い期間ではありましたが、皇學館高校の発展の一端を担うことができました。皇學館高校に於いては、授業・学級活動・クラブ活動に一貫して道徳や礼儀を重んじる教員の方々の姿勢を感じられ、単純に高校生活を楽しくできた自分は一...

良い挨拶は無形の財産

皇學館高校常勤講師 花井 和美

「春ごとに 花の盛りは ありなめど あひ見む事は 命なりけり」
また春が巡って参りました。縁あってこの学園で教鞭を執らせて戴いて早三年経つとは本当に信じられない思いが致します。はじめて生徒がいる校舎に足を踏み入れた折は、会う生徒会う生徒が元氣よく挨拶してくることに目を見張り、嬉しさでいっぱいになりました。中には歩を止め姿勢を正しての挨拶してくれる生徒もいるのには感動を覚えました。このようによく挨拶し、集会では姿勢良く座っていられる生徒の多い学校を...

館友の皆様や先生方のご指導に、感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、平成十五年から「総合的な学習の時間」が始まりました。前年度から、当時の三輪教頭先生のご指導を受けながら、『日本文化探求―神道を中心として―』をテーマに据えて、月次祭の神宮参拝の後、境内を廻りながら神宮の歴史や建築などを学習したり、学校近隣の神宮・古鎮祭・竣工祭の斎主を務めさせていただき、貴重な経験を積むことができました。
また、平成十五年から「総合的な学習の時間」が始まりました。前年度から、当時の三輪教頭先生のご指導を受けながら、『日本文化探求―神道を中心として―』をテーマに据えて、月次祭の神宮参拝の後、境内を廻りながら神宮の歴史や建築などを学習したり、学校近隣の神宮・古鎮祭・竣工祭の斎主を務めさせていただき、貴重な経験を積むことができました。
また、平成十五年から「総合的な学習の時間」が始まりました。前年度から、当時の三輪教頭先生のご指導を受けながら、『日本文化探求―神道を中心として―』をテーマに据えて、月次祭の神宮参拝の後、境内を廻りながら神宮の歴史や建築などを学習したり、学校近隣の神宮・古鎮祭・竣工祭の斎主を務めさせていただき、貴重な経験を積むことができました。

いつどのような人との出会いも互いを成長させる宝、真に「あひ見む事は 命なりけり」かと思ひます。皆様と出逢えたことに感謝し、お礼を申し上げます。有難うございました。

Calendar table with dates from 26 to 31, listing various events, lectures, and activities such as '共催講座(古事記を読む「スサノオノミコト」)', '山室山参拝', '特別公開講座(諸國の「宮」総社の祭り)', etc.

教職員人事

大学

退職 平成24年3月31日付

文学部教授 増井 節郎

教育学部教授(客員教授) 掛本 勲夫

教育学部教授(客員教授) 松田 典祀

教育学部教授(特命教授) 萩 吉康

教育学部教授(特命教授) 松村 勝順

社会福祉学部准教授(特任准教授) 室田 一樹

社会福祉学部准教授(特命准教授) 森岡 純子

学生支援部准教授(特命准教授) 中村 正昭

学生支援部准教授(特命准教授) 土田 靖子

学生支援部准教授(特命准教授) 畑 杏理

学生支援部准教授(特命准教授) 内田入子

学生支援部技術嘱託 村瀬 佳子

学生支援部技術嘱託 総務部事務嘱託

学生支援部技術嘱託 サミュエル・アネスリー

総務部事務嘱託

附属図書館事務室事務嘱託

附属図書館事務室事務嘱託

附属図書館事務室事務嘱託

附属図書館事務室事務嘱託

附属図書館事務室事務嘱託

附属図書館事務室事務嘱託

附属図書館事務室事務嘱託

附属図書館事務室事務嘱託

附属図書館事務室事務嘱託

コミュニケーション学科二年 大西 正紀

教育学科二年 堀 友子

教育学科二年 和田 典子

現代日本社会学科二年 川村 成紀

課外活動等で特に顕著な成績を挙げたクラブ等を褒章する賞です。

柔道部

聖恩奨学金

平成二十二年度から篤志家の意思に基づき、本学の建学の精

神を体し、学業及び人物優秀な社会福祉学部在籍学生に授与される奨学金です。

社会福祉学部三年 濱 涼祐

社会福祉学部四年 武田 恒

社会福祉学部四年 井阪菜々絵

社会福祉学部三年 仲森みどり

社会福祉学部四年 武田 恒

社会福祉学部四年 井阪菜々絵

神を体し、学業及び人物優秀な社会福祉学部在籍学生に授与される奨学金です。

社会福祉学部三年 濱 涼祐

社会福祉学部四年 武田 恒

社会福祉学部四年 井阪菜々絵

社会福祉学部三年 仲森みどり

社会福祉学部四年 武田 恒

神宮特別奨学金 神宮教学並びに神道学に寄与する有為な人材の育成を目的とし、三年以上の学生又は大学院生で、思想健全且つ学業優秀にして文学部神道学科及び大学院に在学し神道学を専攻する者に限定し、神宮様より授与される奨学金です。

神道学科四年 山田 拓也

文学研究科博士後期課程 亀山 泰司

文学研究科博士前期課程 多田 圭介

神道学専攻科神道学専攻 佐藤 裕紀

文学部 北川 愛実

教育学部 佐藤 里絵

社会福祉学部 井阪菜々絵

文学部神道学科 山田 拓也

文学部コミュニケーション学科 谷崎 恵

教育学部教育学科 中村 涼子

社会福祉学部社会福祉学科 天田 景子

文学部国文学科 三島 良美

文学部国史学科 荒木 卓哉

神道学専攻科神道学専攻 小林 弘美

文学部神道学科 関口 諒子

文学部神道学科 角鹿 尚文

文学部国史学科 福田 太志

文学部コミュニケーション学科3年 坂 徳人

教育学部教育学科 春木 美帆

文学部神道学科 山田 拓也

文学部コミュニケーション学科 谷崎 恵

教育学部教育学科 中村 涼子

社会福祉学部社会福祉学科 天田 景子

文学部国文学科 三島 良美

文学部国史学科 荒木 卓哉

神道学専攻科神道学専攻 小林 弘美

文学部神道学科 関口 諒子

文学部神道学科 角鹿 尚文

文学部国史学科 福田 太志

文学部コミュニケーション学科3年 坂 徳人

教育学部教育学科 春木 美帆

文学部神道学科 山田 拓也

文学部コミュニケーション学科 谷崎 恵

教育学部教育学科 中村 涼子

社会福祉学部社会福祉学科 天田 景子

文学部国文学科 三島 良美

文学部国史学科 荒木 卓哉

神道学専攻科神道学専攻 小林 弘美

文学部神道学科 関口 諒子

文学部神道学科 角鹿 尚文

文学部国史学科 福田 太志

文学部コミュニケーション学科3年 坂 徳人

教育学部教育学科 春木 美帆

文学部神道学科 山田 拓也

文学部コミュニケーション学科 谷崎 恵

教育学部教育学科 中村 涼子

文学部神道学科 山田 拓也

文学部コミュニケーション学科 谷崎 恵

教育学部教育学科 中村 涼子

社会福祉学部社会福祉学科 天田 景子

文学部国文学科 三島 良美

文学部国史学科 荒木 卓哉

神道学専攻科神道学専攻 小林 弘美

文学部神道学科 関口 諒子

文学部神道学科 角鹿 尚文

文学部国史学科 福田 太志

文学部コミュニケーション学科3年 坂 徳人

教育学部教育学科 春木 美帆

文学部神道学科 山田 拓也

文学部コミュニケーション学科 谷崎 恵

教育学部教育学科 中村 涼子

社会福祉学部社会福祉学科 天田 景子

文学部国文学科 三島 良美

文学部国史学科 荒木 卓哉

神道学専攻科神道学専攻 小林 弘美

文学部神道学科 関口 諒子

文学部神道学科 角鹿 尚文

文学部国史学科 福田 太志

文学部コミュニケーション学科3年 坂 徳人

教育学部教育学科 春木 美帆

文学部神道学科 山田 拓也

文学部コミュニケーション学科 谷崎 恵

教育学部教育学科 中村 涼子

社会福祉学部社会福祉学科 天田 景子

文学部国文学科 三島 良美

文学部国史学科 荒木 卓哉

神道学専攻科神道学専攻 小林 弘美

文学部神道学科 関口 諒子

文学部神道学科 角鹿 尚文

文学部国史学科 福田 太志

文学部コミュニケーション学科3年 坂 徳人

教育学部教育学科 春木 美帆

文学部神道学科 山田 拓也

文学部コミュニケーション学科 谷崎 恵

教育学部教育学科 中村 涼子

社会福祉学部社会福祉学科 天田 景子

文学部国文学科 三島 良美

文学部国史学科 荒木 卓哉

神道学専攻科神道学専攻 小林 弘美

文学部神道学科 関口 諒子

文学部神道学科 角鹿 尚文

文学部国史学科 福田 太志

文学部コミュニケーション学科3年 坂 徳人

教育学部教育学科 春木 美帆

文学部神道学科 山田 拓也

文学部コミュニケーション学科 谷崎 恵

教育学部教育学科 中村 涼子

社会福祉学部社会福祉学科 天田 景子

文学部国文学科 三島 良美

文学部国史学科 荒木 卓哉

神道学専攻科神道学専攻 小林 弘美

文学部神道学科 関口 諒子

文学部神道学科 角鹿 尚文

文学部国史学科 福田 太志

文学部コミュニケーション学科3年 坂 徳人

教育学部教育学科 春木 美帆

文学部神道学科 山田 拓也

文学部コミュニケーション学科 谷崎 恵

教育学部教育学科 中村 涼子

社会福祉学部社会福祉学科 天田 景子

文学部国文学科 三島 良美

文学部国史学科 荒木 卓哉

神道学専攻科神道学専攻 小林 弘美

文学部神道学科 関口 諒子

文学部神道学科 角鹿 尚文

文学部国史学科 福田 太志

# 附置研トピックス

地域の知の拠点である各附置研究機関における昨年度の活動を報告します。

## 神道研究所

### 公開学術講演会を開催

皇學館大学神道研究所(所長 白山芳太郎教授)主催の公開学術講演会が、平成二十三年七月二十二日(金)、本学伊勢学舎二号館二二一教室で開催され、約六十人が参加した。

今回の講演会では、堺女子短期大学名誉学長・名誉教授の塚口義信氏が「神功皇后伝説の成り立ち」と題して講演された。塚口氏ははじめに『古事記』『日本書紀』に見られる神功皇后の伝承を紹介し、これまでの学界の研究に対する疑問点を指摘し、論を展開された。

神功皇后伝説は、決して六・七世紀に「机上で述作」されたのではなく、祖形となった伝承

### 公開学術シンポジウムを開催

皇學館大学神道研究所主催の公開学術シンポジウム「神宮祠官の学問」が、平成二十三年十二月十日(土)、本学伊勢学舎佐川記念神道博物館講義室で開催され、約五十人が参加した。

今回のシンポジウムは、本所第二部門の担当で、部門長の本澤雅史教授が企画した。神宮古典の研究の大きな華が開いたのは、室町期の祠官たちの学問を前提とした江戸期の学問であった。本シンポジウムにおいては「神宮古典の系譜を一つの指針として、室町・江戸期の祠官たちの学問の興隆と特徴」として

今度のシンポジウムは、本所第二部門の担当で、部門長の本澤雅史教授が企画した。神宮古典の研究の大きな華が開いたのは、室町期の祠官たちの学問を前提とした江戸期の学問であった。本シンポジウムにおいては「神宮古典の系譜を一つの指針として、室町・江戸期の祠官たちの学問の興隆と特徴」として

## 神道博物館

### 神道博物館

宮叢書の編纂「コメンター 中西正幸氏(國學院大学教授)」。発題後の質疑応答は極めて活発で、全国から集まった研究者の積極的な意見交換により、会場は大いに盛り上がった。

本シンポジウムの内容は、『皇學館大学神道研究所紀要』第二十九輯(平成二十五年三月刊行予定)に収められる。

宮叢書の編纂「コメンター 中西正幸氏(國學院大学教授)」。発題後の質疑応答は極めて活発で、全国から集まった研究者の積極的な意見交換により、会場は大いに盛り上がった。

### 神道博物館

「夏休み親子教室」 神宮古館農業館と共催で、「スラムシの庭園を作ろう!」と銘打ち、七月二十七日(木)、三十一日(日)の二回、神宮古館を会場に開催。詳細は、皇學館学園報第三十四号(平成二十三年十月一日発行)参照。

「夏休み親子教室」 神宮古館農業館と共催で、「スラムシの庭園を作ろう!」と銘打ち、七月二十七日(木)、三十一日(日)の二回、神宮古館を会場に開催。詳細は、皇學館学園報第三十四号(平成二十三年十月一日発行)参照。

「夏休み親子教室」 神宮古館農業館と共催で、「スラムシの庭園を作ろう!」と銘打ち、七月二十七日(木)、三十一日(日)の二回、神宮古館を会場に開催。詳細は、皇學館学園報第三十四号(平成二十三年十月一日発行)参照。

### 神道博物館

「伊勢の神宮と日本人」 講師 伴五十嗣郎先生 本学名誉教授・特別教授

「伊勢の神宮と日本人」 講師 伴五十嗣郎先生 本学名誉教授・特別教授

「伊勢の神宮と日本人」 講師 伴五十嗣郎先生 本学名誉教授・特別教授

## 館史編纂室

### 全国大学史料協議会 総会ならびに全国研究会の開催

平成二十三年十月五日(木)から七日(土)の三日間、本学を会場に、全国大学史料協議会二〇二一年度総会ならびに全国研究会が開催された(全国大学史料協議会については本誌一四二号を参照)

一日目は四三二教室を会場として、十四時三十分開始。佐



渡辺寛先生の記念講演



3日目見学会の様子

七時まで「災害とアーカイブズ」をテーマとした全国研究会(①東北大学・永田英明氏、②甲南学園・溝上真理子氏、③東洋学園・永藤欣久氏、

古理事長の会場挨拶に始まり、総会を開催。引き続き、五時四十分からは、渡辺寛本学名誉教授・館史編纂室長が「皇學館の創立―明治十五年と学校史―」と題して記念講演を行った。また講演会終了後には、佐川記念神道博物館を見学した。

二日目は、会場を記念館に移して、十時〜十七時まで「災害とアーカイブズ」をテーマとした全国研究会(①東北大学・永田英明氏、②甲南学園・溝上真理子氏、③東洋学園・永藤欣久氏、

初日の記念講演は公開講演とされたので、本学学生・教職員も多く聴講し、会場の四三二教室は満席となった(約二百名)。皇學館創立の背景を史料に基づいて解き明かしたその講演は、創立百三十年・再興五十年を眼前に控え、本学の原点を再確認する機会になったことであろう。

本学は、研究所が行ってきた受託研究、シンポジウムなどの行事、学術交流・地域連携の諸成果をとりまとめたもので、四分冊、一千余頁となる大部の出版物である。研究の柱は「社会学部と地域社会との連携に

## 地域福祉文化研究所

### 地域福祉文化研究所

本年度事業は、一つの柱と三つの連携交流事業をまとめることとした。

柱とは、本年四月三十日に迎える創立百三十年周年・再興五十年記念事業の一環である研究

本年度事業は、一つの柱と三つの連携交流事業をまとめることとした。柱とは、本年四月三十日に迎える創立百三十年周年・再興五十年記念事業の一環である研究成果の刊行で、三つのそれは、国際学術交流、地域連携活動、特別研究会における協働作業である。

「皇學館創立百三十年・再興五十年記念 地域・福祉・文化」の刊行 本書は、研究所が行ってきた受託研究、シンポジウムなどの行事、学術交流・地域連携の諸成果をとりまとめたもので、四分冊、一千余頁となる大部の出版物である。研究の柱は「社会学部と地域社会との連携に

「皇學館創立百三十年・再興五十年記念 地域・福祉・文化」の刊行 本書は、研究所が行ってきた受託研究、シンポジウムなどの行事、学術交流・地域連携の諸成果をとりまとめたもので、四分冊、一千余頁となる大部の出版物である。研究の柱は「社会学部と地域社会との連携に

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> <li>1日 期末考査</li> <li>6日 立会演説会</li> <li>11日 人権学習①</li> <li>14日 クラスマッチ</li> <li>19日 保護者懇談</li> <li>25日 終業式</li> <li>27日 オーストラリア語学研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日 始業式</li> <li>2日 地震避難訓練</li> <li>2日 スタディサポート</li> <li>3日 ロースヒル校来校</li> <li>3日 1年文理選択説明会</li> <li>5日 3年保護者懇談</li> <li>5日 皇高祭(観文)</li> <li>16日 皇高祭(本校)</li> <li>17日 学校見学会①</li> <li>27日 体育大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日 始業式</li> <li>3日 中間考査</li> <li>5日 全校集会</li> <li>5日 学校見学会②</li> <li>8日 父母の日</li> <li>30日 県高校総体祭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2日 博物館学習①</li> <li>5日 皇中祭</li> <li>11日 連合音楽会</li> <li>22日 3年生修学旅行</li> <li>30日 薬物乱用防止教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2日 期末・卒業考査</li> <li>7日 全校集会</li> <li>9日 博物館学習②</li> <li>9日 人権学習②</li> <li>12日 月次祭</li> <li>16日 武道ハート大会</li> <li>19日 保護者懇談</li> <li>20日 終業式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10日 始業式</li> <li>14日 センター試験</li> <li>14日 3年最終登校日</li> <li>21日 1・2年実力テスト</li> <li>27日 入学学力検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7日 A日程入学試験</li> <li>10日 A日程合格発表</li> <li>14日 入試B日程受付開始</li> <li>14日 B日程入学試験</li> <li>15日 B日程実力テスト</li> <li>17日 百人一首大会</li> <li>21日 B日程入学説明会</li> <li>24日 総合まとめ②</li> <li>27日 皇高入試</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3日 卒業認定会議</li> <li>4日 3年登校日</li> <li>10日 建国記念の日の講演</li> <li>18日 2年生スキー研修</li> <li>18日 高校入学説明会</li> <li>27日 学年末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日 卒業式</li> <li>2日 学年末考査</li> <li>8日 全校集会</li> <li>8日 進級認定会議</li> <li>16日 1・2年スタディサポート</li> <li>19日 クラスマッチ</li> <li>23日 終業式</li> </ul>

皇學館大学創立百三十年・再興五十周年記念 特別展「神社名宝展—参り・祈り・奉る—」出陳品目

神社名宝展では諸社に伝世する御宝物類のほか、神社の有する聖域性の一端を窺う神社境内図、人々の諸社に対する崇敬の諸相を読み解く参詣曼荼羅を中心に紹介いたします。

Table with 12 columns: 番号, 指定, 展示品名称, 員数, 形態, 時代, 所蔵先, 展覧期間. Rows 1-31.

Table with 12 columns: 番号, 指定, 展示品名称, 員数, 形態, 時代, 所蔵先, 展覧期間. Rows 32-66.

Table with 4 columns: 著者・編集, 種別, 書名, 出版予定. Rows for '神宮の総合的研究', '福祉と地域連携に関する総合的研究', '儀式・注釈・儀礼・大嘗祭', '続日本紀史料', '記念展覧会開催', '館史編纂'.

皇學館大学創立百三十年・再興五十周年記念事業 学術研究部会出版物

# 皇學館大学の 来歴 16

## 神宮皇學館における神道の研究と教育

皇學館大学名誉教授・皇學館館史編纂室長 渡辺 寛

神宮皇學館は明治十五年四月、時の神宮祭主久邇宮朝彦親王の令達によって皇大神宮の林崎文庫に設立されたが、内務卿に提出された「皇學館設置ノ儀」には、「本館設立ノ大意ハ、専ラ神宮ニ関スル古伝ヲ明ニシ、其他神典・国史・律令・地理・物産・氏族・語学等ニ至リ、生徒ヲシテ之ヲ習熟セシメ、以テ其成材ヲ要ス」とあり、「神宮ニ関スル古伝ヲ明ニ」することをその設立の主旨とし、その他神典以下の諸学科を以て「皇學」を構想する神宮の教学機関として出発した。

それが、その学科目は古典・歴史・文学・法制・哲学・論理・経済・体操の八科よりなり、古典歴史文学法制がその中心であり、荷田春満・賀茂真淵・本居宣長・平田篤胤と続く御国学心・皇朝学の体系を備えたものであった。さらに明治二十七、八年ころからは、時の神宮宮司で館長の任にもあった鹿島則文の主導のもと、神宮の教学機関としての皇學館をさらに国家の高等教育研究機関に昇格拡大せんと期して、その規模と質の拡充の方策が続々と実施された。明治二十九年四月より実施された新しい『神宮皇學館規則』以下の諸規程はその意欲を具体的に示すものであった。その第一条には「本館ハ、皇學ヲ教授シ、併セテ其ノ研究ニ須要ナル学科ヲ修メシムル所トス」とあり、ここに学規としてはじめて「皇學」の語が明示されている。本科(四年制)・予科(五年制)・専科(二年制)、予科は尋常中学校に相当し、専科は普通神職養成課程、中心は本科であり、高等専門教育を期すものである。その学科目と授業時間は、経義(八)・歴史(内国史二〇・外国史一二、計三三)・法制(一六)・文学(国文一六・漢文一六・英文一〇、計四二)・哲学(一〇)・礼式(四)・体操(二二)・四年間で総計一二四時間。これらの学科目と時間数、この時点で神宮皇學館の志向し構想する皇學の具体相を示すものに他ならないが、歴史・法制・文学がその基幹である。学舎もまた五十鈴川畔の宇治館町に大小十六棟よりなる総建坪九百三十七坪の堂々たるものが新築された(明治二十九年十二月)。すべて内務省予算によるものであった。

本館卒業生の社会的評価として、本社界では本科生は官国幣社司・権宮司に、専科生は同称以下に無試験採用せらるべき旨規定せられ(明治二十八年九月の内務省訓令、明治三十五年勅令をもって、本科生は奏任待遇の神職に、専科生は判任官待遇の神職に、と改訂)、教育界においては明治三十二年九月、

文部省指令をもって無試験検定により師範学校・中学校・高等女学校の日本史及び国語科教員たる資格を与えられた(翌年、国語漢文科及び歴史科教員と改訂)。また当時唯一の最高学府であった帝国大学文科大学に進学する者も少なくなかった。そして明治三十六年八月、勅令をもって「神宮皇學館官制」が公布せられ、これより本館は内務省所管の官立専門学校と位置づけられ、神宮の一教学機関から創立二十一年目に名実ともに国家の教育研究機関の体制が整ったのであった。

しかし、施設の拡充と制度の確立はその反面また学生達にはなお満たされないものを生じせしめた。世間なみの学校にならうとして、皇學館の皇學館たるゆえんが薄くなってきているのではないかという不安である。新校舎の竣工成り、その開館式の直前の明治三十年五月、安藤正次を起草者として学館の本科生十九名連署による六項目よりなる開陳書が館長に差し出された。その中心に「神道科をおくこと」、「良教師増聘の事」がある。専ラ神宮ニ関スル古伝ヲ明ニ」するをもつて出発した本館ではあったが、これまでみてきたようにその学科目の中に「神道」とか「神宮」とかはみえない。

その名はみえないが、しかし当時の皇學館で「神道」の研究や教育がなされていなかったのではない。明治四十五年四月、本館は創立三十周年紀念式典を挙行したが、その基調講演「学府の三大目的」と題して、皇學館の為に気焔を吐かれた国語学の土田萬年博士(当時は東京帝国大学文科大学長、のち大正の後半期本館の館長を兼任)は、「世間や学校で神社宗教に関する知識は皇學館以上に進んで居るものはない。」「神道の精神を教育に入れるのはどんな風にしたらよいかなどというふうなことは、この学館の方々が日本に於いて最權威を有するということに差支えない。」と皇學館における神道の研究と教育の水準を口を極めて高評している。以て明治期の皇學館の学問と教育を知るべきであろう。



土田萬年館長 (大正8年~15年)

道研究会を作ろうとしたが皇道研究会とすべしと命ぜられていた。大正七年四月、「神道の研究」と「敬神思想の宣伝」を主旨として、本科生原田敏明・錦木勢岐らを中心に「神道学友会」が結成された。毎週読書会を開き、毎月の例会時に館外に出て敬神思想講演会を催すなど意欲的な活動に乗り出した。そして六年後の大正十三年五月その会誌『神路』を創刊するに至った。

しかしまた学館の学科目に「神道」の名はない。神宮皇學館において「神道」の学科目が登場するのは、大正十五年二月に改訂された『神宮皇學館規則』からである。その第一条に、「本館ハ皇學ヲ教授シ併セテ其ノ研究ニ須要ナル学科ヲ修メシムル所トス」は明治二十九年以来不変であるが、第五条に「本科ノ学科目ヲ神道、修身、国語、漢文、歴史、哲学、法制、英語、体操トス」とある。皇學館史上はじめて学科目に「神道」が登場し、しかもその最初に記されている。この年度の学規の改訂はかなり大幅で、本科四年間の後半、第三学年と第四学年を分ちて、「国語漢文」を専攻する「第一部」と「歴史」を専攻する「第二部」とし、「神道」はいずれの部も共通の必修科目とされ神道概論・神道史・神祇史・祝詞及同作文・古典解説・神社祭式をもつて構成され、いずれの専攻も三、四年の全六四時間中十時間がこれらにあてられている。神宮皇學館における学としての「神道」の確立といえよう。時の館長は東京帝国大学教授を兼ねる土田萬年博士であった。

さらに昭和七年度からはその学科目構成に変化はないが、本科の組織を改編し「神道科」・「国漢科」・「歴史科」の三専攻に区分され昭和十七年九月卒業の神宮皇學館本科最後の五十二期生に及んだ。昭和十五年四月、内務省所管の神宮皇學館は、神宮皇學館大學に昇格し文部省所管の官立大学となり、その学部は昭和十七年十月開講された。山田孝雄学長のもと祭祀・政教・国史・古典の四専攻、「神道」は祭祀専攻とされ原田敏明教授を中心に当時の講座制で神道学第一、同第二の二講座がおかれ、そのもとで祭祀概論・祭式・祝詞・神道概論・神祇史・神祇制度史・礼典原論・神道学・神道学演習・神道史などの学科目が展開された。また学部は先立ち昭和十六年四月には附属専門部が開設され、ほぼ神宮皇學館本科の神道科の内容を継承し、神道に関する専門教育が学行一如の合言葉のもと真摯な神道教育がなされていた。皇學館における神道の研究と教育は、神宮皇學館大學となり、より深く広く展開された。

### 平成二十三年度表彰一覧

#### 神社本庁設立六十五周年記念表彰

五月二十五日(木)に東京・渋谷(CJ Atriumホール(現・渋谷公会堂))にて開催された神社本庁設立六十五周年記念式典での記念表彰に於いて、文学部教授の河野訓さん及び大島信生さんの二名が、学術関係及び神職養成機関功労者として表彰された。

#### 第四十七回三重県私学大会表彰

十月十五日(土)午後二時より三重県総合文化センター(男女共同参画センター)多目的ホールにて開催された三重県私学大会に於いて、私立学校教育振興のため、永年尽力された功績者、保護者および優良生徒が表彰された。なお、本学関係者は次のとおりである。

#### ◆永年勤続者

満四十年

宮城洋一郎 吉崎 久 山本 直明

満三十年

上久保達夫 深津 睦夫 水本 昌克

北橋栄里子 岩本 芳子 平賀 秀忠

竹川 信彦 上村加奈子

満二十年

児玉 玲子 岡部 博英 小塚 邦代

◆保護者

八木 雅文氏(皇學館中学校保護者会会長)

五十子 智氏(皇學館中学校保護者会副会長)

加藤 光一氏(皇學館中学校保護者会副会長)

村瀬 敬一氏(皇學館高等学校保護者会会長)

中村 源一氏(皇學館高等学校保護者会副会長)

井田 守氏(皇學館高等学校保護者会会計)

北村 裕司氏(皇學館高等学校保護者会会計)

#### ◆優良生徒

奥田 健吾(皇學館中学校三年)

#### ◆労働基準協会優良勤労者表彰

中谷 賢司(皇學館高等学校三年) 荒木 志帆(皇學館高等学校三年)

十一月十五日(火)に伊勢市生涯学習センターにて開催された、平成二十三年度伊勢地方産業安全衛生大会・優良勤労者表彰式において、学校事務部学校事務室技手の山本美代子さん・企画部係長の小津かおりさん・企画部主任の奥知裕さんの三名が、永年にわたり誠実勤勉に勤務したことに対し、表彰された。

#### ◆障害者雇用優良事業所表彰

本法人事業所が障害者を積極的に雇用し、その雇用の促進及び職業の安定に著しく貢献したとして、社団法人三重県雇用開発協会より平成二十三年度障害者雇用優良事業所として表彰された。表彰式は九月十三日(火)に津市「ベルセ島崎」において執り行われた。

しかし、施設の拡充と制度の確立はその反面また学生達にはなお満たされないものを生じせしめた。世間なみの学校にならうとして、皇學館の皇學館たるゆえんが薄くなってきているのではないかという不安である。新校舎の竣工成り、その開館式の直前の明治三十年五月、安藤正次を起草者として学館の本科生十九名連署による六項目よりなる開陳書が館長に差し出された。その中心に「神道科をおくこと」、「良教師増聘の事」がある。専ラ神宮ニ関スル古伝ヲ明ニ」するをもつて出発した本館ではあったが、これまでみてきたようにその学科目の中に「神道」とか「神宮」とかはみえない。

その名はみえないが、しかし当時の皇學館で「神道」の研究や教育がなされていなかったのではない。明治四十五年四月、本館は創立三十周年紀念式典を挙行したが、その基調講演「学府の三大目的」と題して、皇學館の為に気焔を吐かれた国語学の土田萬年博士(当時は東京帝国大学文科大学長、のち大正の後半期本館の館長を兼任)は、「世間や学校で神社宗教に関する知識は皇學館以上に進んで居るものはない。」「神道の精神を教育に入れるのはどんな風にしたらよいかなどというふうなことは、この学館の方々が日本に於いて最權威を有するということに差支えない。」と皇學館における神道の研究と教育の水準を口を極めて高評している。以て明治期の皇學館の学問と教育を知るべきであろう。

しかし「神道」なる学科目はおかれなかった。明治末年にも神道主義で建てた学館に神道の学がないのを不満として当時の学生の有志が神道研究会を作ろうとしたが認められず、祭式研究会として許可された。大正の初年にもやはり学生有志が神道研究会を作ろうとしたが皇道研究会とすべしと命ぜられていた。大正七年四月、「神道の研究」と「敬神思想の宣伝」を主旨として、本科生原田敏明・錦木勢岐らを中心に「神道学友会」が結成された。毎週読書会を開き、毎月の例会時に館外に出て敬神思想講演会を催すなど意欲的な活動に乗り出した。そして六年後の大正十三年五月その会誌『神路』を創刊するに至った。